

指導案

パラリンピアン の 日常生活からバリアフリーを考える

授業の目標

- ・バリアフリーのための設備や施設について、その目的が果たせない状態になる場合を考えることを通して、「バリア（障壁／困り事を生み出す原因）」を「フリー（取り除く）」にという考え方への理解を深める。

【授業後にめざす姿】

- ・身の回りの設備や施設を、「本当にバリアフリーになっているか」という視点で見ることができる。
- ・さまざまな人に対して、思い込みや先入観を無くし、積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業展開（50分）

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
10分	<p>1 身の回りのバリアフリーのための設備や施設について考えさせる。</p> <p>最初に考えよう</p> <p>社会の中で、バリアフリーのための工夫には、どんな設備や施設があるだろう？</p> <p>○どんなものがあるか、グループで話し合わせるなどして考えさせる。</p> <p>○発表させ、考えを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に「バリアフリーとはどのようなことだと考えているか」投げかけ、ワークシートの空欄を示し、生徒に考えさせてから映像を再生し、「バリア（障壁／困り事を生み出す原因）」を「フリー（取り除く）」にということを確認して、記入させるとよい。 ・生徒は、聞いたことがあっても正しい理解をしていない場合が多いことが予測され、この後の学習への興味を高めることができる。 ・映像を再生する前に、ワークシートの記入欄（表）の左側に列記させていく。
10分  約4分	<p>2 バリアフリーの設備や施設を必要とする人の例として、パラリンピックを想起させ、パラリンピアンにはさまざまな障害があることを確認し、「日常生活をどのように送っていると思うか」と投げかけ、映像を再生する。</p> <p>考えよう</p> <p>バリアフリーの設備や施設について、その目的が果たせない状態になるのは、どんな場合だろう？</p> <p>○ヒントを参考に、どんな場合が考えられるか、グループで話し合わせるなどして考えさせる。</p> <p>○発表させ、考えを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像では、設備や施設としてはバリアフリーになっているが、人間が意図せずにバリアを生み出す場合があることを提示している。 ・ヒントとして、「エレベーター」「車いすマークがついた駐車場」「バリアフリースイッチ」「音響式信号機」について、使用シーンがイメージできるものを準備。 ・他にも、以下のように、自分たちなりに考えが出せるとよい。 ○スロープ → 物があると先に進めない。 ○点字ブロック → 物があるとぶつかる。 ○手すり → 高さが合わないと思えない。
10分  約6分	<p>3 「今、設備や施設のバリアフリーについて考えたけれど、バリアになるのは、設備や施設だけだろうか？」と投げかけ、映像を再生する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像では、「思い込みや先入観が見えないバリアを生み出すこともある。バリアを減らすためにできることは？」と次の問いにつながるようになっている。
10分	<p>4 考えよう</p> <p>思い込みや先入観などの気づきにくいバリアを減らすには、どうすればいいだろう？</p> <p>○ヒントを参考に、どんなことが考えられるか、グループで話し合わせるなどして、考えさせる。</p> <p>○発表させ、考えを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントとして、「スポーツウェアを着て、白杖を持っている人」「車いすに乗ってスリーポイントシュートをしている人」の心の声を準備。 ・「障害がある」と「できない」を単純に結びつけるのは誤った認識であることに気づかせる。 ※この際に、「障害があるのに○○できるのはすごい」というような発言があった場合、「障害がある」から「できない」という先入観を前提とした表現であることについても気づかせられるとよい。
10分  約4分	<p>5 「さまざまなバリアを減らすにはどうすればいいのだろう？」と投げかけ、映像を再生する。</p> <p>○本時のふりかえりを記入させ、何人かに発表させ、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像では、パラリンピアン の 香西選手が「発想を変えたり、環境を整えて工夫をすることで、できるようになることもある」ということを伝えている。

ワークのポイント

最初に考えよう

社会の中で、バリアフリーのための工夫には、どんな設備や施設があるだろう？

- ・映像を視聴する前に、身近なバリアフリーについて考えさせます。

考えよう

バリアフリーの設備や施設について、その目的が果たせない状態になるのは、どんな場合だろう？

- ・次に、バリアフリーが目的を果たせていない場合を考えさせます。

パラリンピアンは日常生活からバリアフリーを考える

最初に考えよう 社会の中で、バリアフリーのための工夫には、どんな設備や施設があるだろう？

考えよう バリアフリーの設備や施設について、その目的が果たせない状態になるのは、どんな場合だろう？

考えよう バリアフリーの設備や施設

考えよう 思い込みや先入観などの気づきにくいバリアを減らすには、どうすればいいだろう？

ふりかえり 授業をふりかえって、気づいたこと、考えたことを書こう。

考えよう

思い込みや先入観などの気づきにくいバリアを減らすには、どうすればいいだろう？

- ・気づきにくいバリアを減らすためには、どんなことが大切になるのか、考えさせます。

考えよう画面では、自分の端末から**ヒント**をクリック！

考えよう

バリアフリーの設備や施設について、その目的が果たせない状態になるのは、どんな場合だろう？

バリアフリー設備① エレベーター

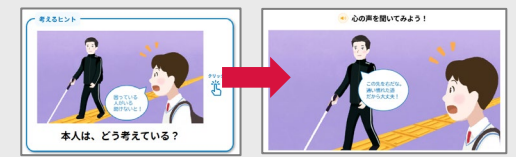
バリアフリー設備② 車いすマークがついた駐車場

バリアフリー設備③ バリアフリートイレ

目的が果たせないとはどのような状態なのか、ヒントとなるシーンを準備。



2つの場面を準備。当事者の心の声（例）を見てみると、決めつけて考えがちであることに気づく。



【映像で伝えていること】

- ・物理的なバリアだけでなく、設備や施設が目的通り機能しない場合もあること。
- ・当事者でないと気づきにくいバリアや、思い込みや先入観などの意識のバリアもあること。
- ・制度上のバリアなども含め、さまざまなバリアがあること。
- ・真のバリアフリーの実現には、さまざまなバリアを踏まえ、当事者と対話し、工夫して解決することが大切であること。
- ・パラリンピアンは香西選手が考える、障害の有無に関わらず誰もが自分のやりたいことを実現できる社会について。



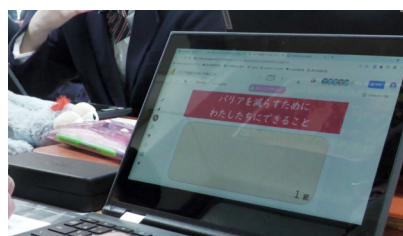
◆ ICTの活用アイデア

グループで考える・クラスのことを知る（協働的な学び）

グループでの話し合いなどでは、ICTを活用することで、考えを可視化し、効果的に深めることができます。



↑ 各グループが考えたことを、全体で共有している例。さらに考えを深めることができます。



↑ 授業の終末で、個人で「できること」を記入している例。（Google Jamboardの例）

自分のペースで考える

（個別最適な学び）

考えようのページには、**ヒント**を準備しています。ぜひ、各自の端末から開かせ、自分で考える参考にさせてください。

その問いを考えるときに、URLを送付したり、開かせたりすると、活動に集中させることができます。



また、イヤホンを準備すると、映像視聴も含め、自分のペースで、自立的に学習を進めることができます。

ワークシート回答例

パラリンピアン¹の日常生活からバリアフリーを考える

年

組

番 名前

最初に考えよう 社会の中で、バリアフリーのための工夫には、どんな設備や施設があるだろう。
⇒下の表の左側に書こう。

バリア
障害

フリー

困り事

を生み出す原因を

取り除く

1 映像 ▶ 初めの映像を見よう

2 考えよう バリアフリーの設備や施設について、その目的が果たせない状態になるのは、どんな場合だろう？
⇒自分が書き出したものに対応させて、表の右側に書こう。

考える
ヒント

最初に考えよう バリアフリーの設備や施設

その目的が果たせない状態になってしまう場合

例：入り口にスロープを設置している

例

- エレベーター。
- バリアフリートイレ。
- トイレや階段の手すり。
- 歩道橋のスロープ。

など

例：スロープの前に自転車^{自転車}が駐輪されていて、車いすを使う人などが通れない

例

- エレベーターが混んでいて必要とする人が乗れない。
- 着替えなどの目的で使う人が多くて使えない、故障している。
- 手すりが汚れている、手すりの高さが高いまたは低い。
- スロープの角度が急で危ない。

➡ **3 映像** ▶ 続きの映像を見よう

4 考えよう 思い込みや先入観などの気づきにくいバリアを減らすには、どうすればいいだろう？

考える
ヒント

例

- 勝手に決めつけずに、まずはその人の考えを聞いてみる。
- 障害のある人はみんな同じことに困っているわけではない、一人一人ちがうことを理解する。
- その人の立場になって考える。

など

➡ **5 映像** ▶ まとめの映像を見よう

共生社会とは

年齢、性別、人種、障害の有無などに関わらず、すべての人の基本的な権利が尊重され、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会を「共生社会」という。
『I'mPOSSIBLE』日本版では、誰もが生き生きとした人生を送るためには、誰もが公平公正に自分の意思で選択できることが不可欠と考えている。

ふりかえり 授業をふりかえって、気づいたこと、考えたことを書こう。

- バリアフリーの設備があれば大丈夫だと思っていたけれど、いろいろな状況で使えない状態になることがわかった。
- 障害のある人はみんな困っているという思いこみをしていることに気づいた。
- いろいろなバリアをなくすために、その人の話を聞くなど、自分ができることからしていこうと思った。

自分で学習する
サイトはこちら